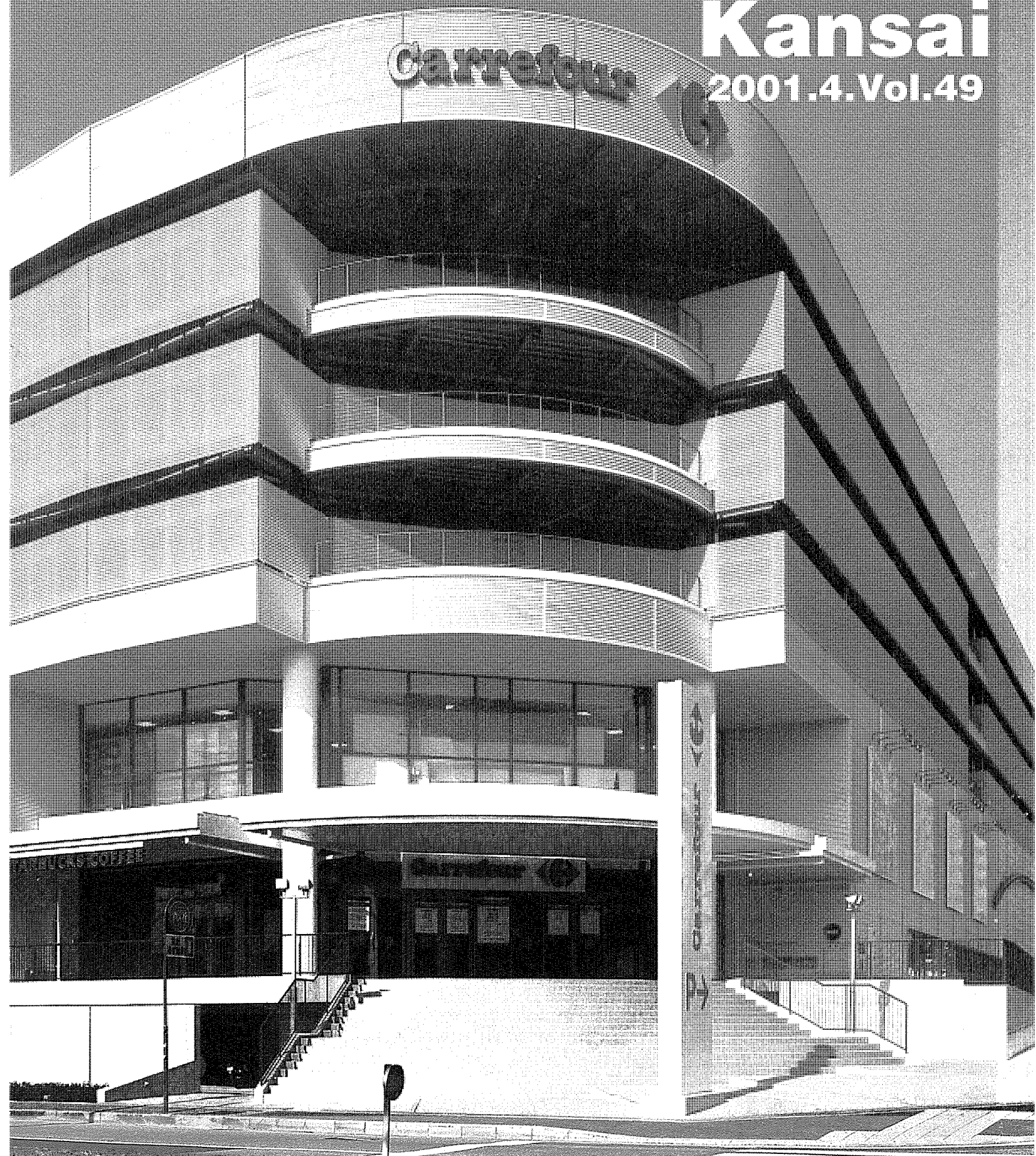


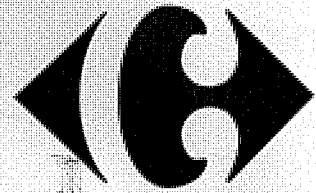
JCD

Kansai

2001.4.Vol.49



Carrefour



Carrefour

カルフルー光明池



1F

- 名称/カルフルー光明池店
- 所在地/大阪府和泉市室堂町824-55
- オープン/2001年1月30日
- クライアント/カルフルー・ジャパン
- 店舗面積/ハイパーマーケット：約10,000m²
ショッピングモール：約3,000m² (31店舗)
- 設計/石本建築設計事務所
商環境設計/ジオ・アカマツ
売り場内装/カルフルー・ジャパン+石本建築設計事務所
- 施工/竹中工務店

全世界27ヶ国、717店舗以上のハイパーマートを展開する世界第2位の流通企業「カルフルー」が幕張、南町田に続き、大阪の光明池にオープンした。

カルフルーは、ハイパーマーケット+ショッピングモールの2つのゾーンにより構成されている。今回我々はショッピングモールの商環境デザインを設計したわけであるが、フランス企業との共同作業というのは初めての事であり、手探り状態でのスタートとなった。

当初、商環境のテーマは「フランス」の一言だけであった。フランスの伝統、文化、芸術、建築など様々な視点からデザインの方角性を検討し、フランスの薫り漂う空間を目指し計画に取り組んだ。ところが、カルフルーのトップの判断により、同時進行していた3店舗のデザインを急遽統一することとなり、計画の変更を余儀なくされた。その後急ピッチでデザインが決定され、現在の形に至るわけであるが、先行していた幕張案をベースにして各部位



2F



2F



1F



2F

ごとにコンペ形式で提案を行い、カルフル側が判断するという方法が採られた。3店舗それぞれを担当する3社(リックデザイン、シーズ環境開発企画、当社)の提案が各所に取り入れられ、まさに3社共同のベースプランとなった。ただし、建築的な与件の違う部分、特にフードコートなどは独自のプランとなっている。

今回の計画のポイントは、広く単調なモール空間を、いかに快適で賑わいのある空間にするかということであった。1・2階とも店舗ファサード部に曲線を用い、1本の直線モールに変化を持たせるとともに、それぞれの店舗ファサードを戸建て店舗風に見せることで街路空間の雰囲気を出した。デザインはパリの街角をイメージし、全体としてはサンドページを基調とした中に、グリーンをポイントとして用い、非常にシンプルではあるが洗練されたデザインとした。また、ファニチャー類は外部仕様の物を多用するなど、演出効果を高める要素として有効に活用できたのではないだろうか。

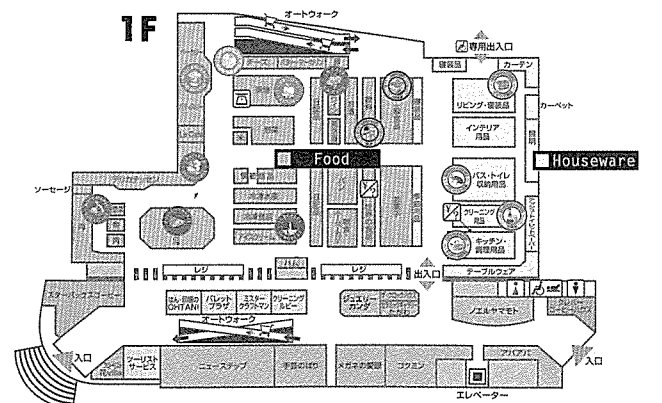
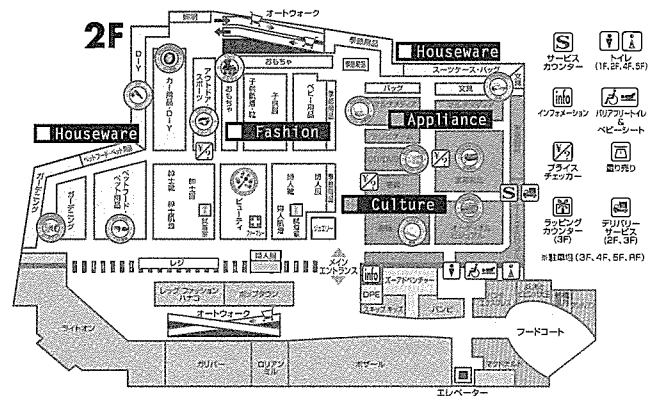
計画を終えて感じた事は、世界第2位の売上実績と、様々な南国で出店してきた経験を持つカルフルの国際性と、フランス企業らしい合理的な考え方など、当然の事ではあるが改めて実感した。

カルフル光明池店がオープンして、はや2カ月が経過しようとしている。現地を訪れ改めて思うことは、消費者が求めているものは、魅力的な価格、新鮮で価値ある商品と、ショッピングの魅力を満悦できる賑わいとふれあいの場である。今後さらに魅力あふれるショッピングモールを創造するために、今回の経験と我々の持つ商業のノウハウ、そしてカルフルの企業力を融合し、本場フランスを越える施設の実現を目指したい。

(宮本淳司/ジオ・アカマツ)

CARREFOUR SHOPPING GUIDE

カルフル光明池・ショッピングガイド





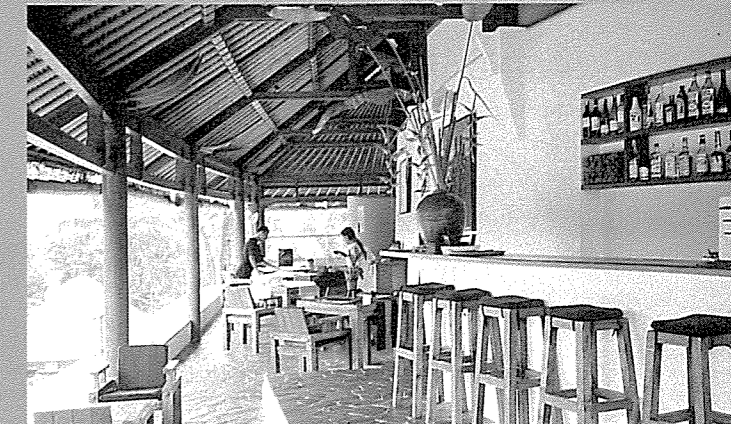
30年前、ヒッピーというのが日本でもはやった。ドロップアウトすることがカッコよかった時代のことである。今もそれらしい人々はいらぬのだが、世間の舞台から遠ざかってしまった。80年代にヤッピーなる人が出現したりしたが、世紀をこえて今は、世界中そんな事を言っていられなくなった。ある価値観を見せつけて「どーだ」と言いくいのである。でも、居るところには居るんです。「どーだ」というような人が。

1991年に東西という大きなフレームがなくなって以来、世界はいろいろとタイヘンである。アジアもそうで民族間の衝突がムキ出しになっている。去年APSDAが開催されたバリにしても「あぶないんじゃないか」と言われたりした。わざわざインドネシアの協会から、バリは安全だからご心配なくと言ってきたほどだ。

そんな中にのりこんでいったのだが、バリ島は私たちの想像以上に、別の意味で「あぶなかった」。気を抜かれるような空気にまわりつかれるヘンなところなのである。なるほど「バリハイ」の島なのだった。そんな島なので、住民は全員がヒッピーのように見え

てくる。というよりもハナからドロップアウトして別種の濃密な世界を生活しているように見える。欧米から目をそらし、アジアの興味を示す最近の若い世代の気持ちがうなづけるような気がする。しかし、そんな島の時間を当り前にゆったりと過ごす島の住人をヒッピーとは言わないだろう。やはり、ヒッピーたるものモチベーションが必要である。「今ここにはないものを求めて」というようなカウンター気分がほしい。

で、いたんです。そんな人がバリに。しかも白人でした。写真の建物は1階がバリに根ざしたコンテンポラリーアートのギャラリーで、2階が周辺の田んぼに開放されるイタリアンのテラスレストランというものである。モダンとバリがまじり合った奇妙なデザインが目にとまり、車を止めてわざわざ寄ってみた。近くには世界最高レベルといわれるリゾートホテル「アマンダリ」があり、職業柄そこを見物し、とてもいい気分になっていた時だった。(JCD野村理事長、奥平氏、そして私は、APSDAでの役目上カンツメになっており、その息抜きがアマンダリ体験だった)。同行した星さん、



それから今回のAPSDAに特別参加された庄野女史(彼女は環境の音デザイナー)と共に堀ゴツツ風のテーブルに坐り、青々とした田んぼに囲まれてビールを飲む。ポー然とする。

そこにあらわれたのである。ヒッピーのような人が。「どーだ」と近づいてきたのである。昔のヒッピーとちがって汚らしくない。聞けばフィレンツェからやってきて、田んぼの向こうに見える小屋に住み、このレストランを手伝っているという。そして、これも昔のヒッピーとちがって、下階のアートギャラリーも欧米人や日本人を相手にもうかっているという。にもかかわらず、やはりヒッピーがいたぞと私に想わしめたのは、その風体に「今ここにはないものを求めて」が感じられたからである。そして、そこに、そこはかとなくもなつかしい「カウンター」の気分を覚えてしまったからだ。庄野女史にばかり話しかけるのが気に入らなかったが、このフィレンツェのヒッピー、今もいるのだろうか。

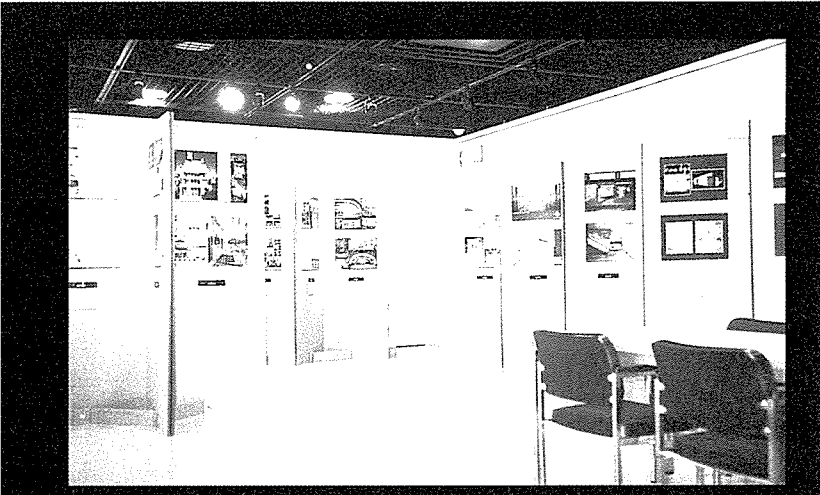
(飯島 直樹)



「バリ島のヒッピー」

Overseas Report BALI

EXHIBIT 7000



EVENT

日本の空間デザイン 2000展

Design

平成12年11月23日より、28日まで、ATC大阪デザイン振興プラザ・デザインギャラリーで開催されたJID、SDA、DDA、そしてJCDのデザイン4団体共催による、日本の空間デザイン2000展に先立ち、11月22日の設営終了後、デザイン4団体の親睦を兼ねてオープニング記念パーティーが開催された。まず、大阪デザインセンターの川上部長の挨拶に始まり、JCDの山田支部長の御礼と新メンバーのJIDの八十関西事業支部支部長を紹介、ご挨拶の後、SDAの大橋常任理事による乾杯の音頭で懇親パーティーの幕は開けた。

パーティー参加者は70名程度で、4団体のメンバーがそれぞれ知人のメンバーを紹介しあい各々の立場からのデザイン談義に花が咲き、組織を越えての有意義なパーティーであった。DDAの太田副会長が、関西を基盤とするデザイン4団体の交流をより有意義なものとし、来年もこの場での再会を誓って中締めとし、パーティーを締めくくった。他の3団体に比べ、JCDメンバーの参加が少なかった様に思う。せっかくの交流の場でもあるので、来年は是非多数ご参加をいただきたいと思う。なお、このパーティーの企画、運営はJCD研究開発委員会が中心になって行った。

2000

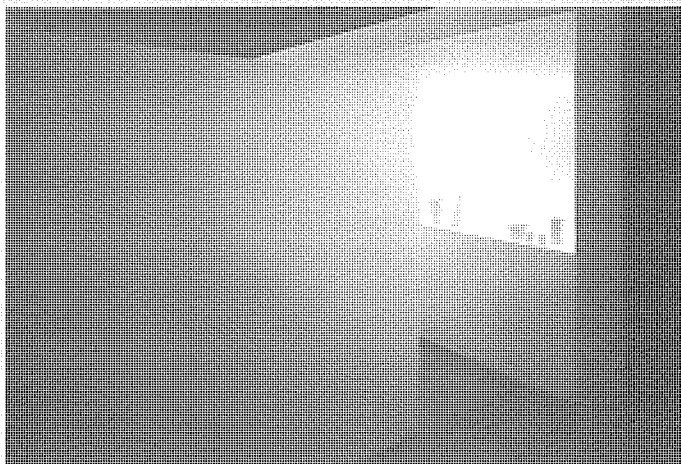


庄野泰子氏「潜在する海の音」
"Wave" "Umi-Tsukushi"

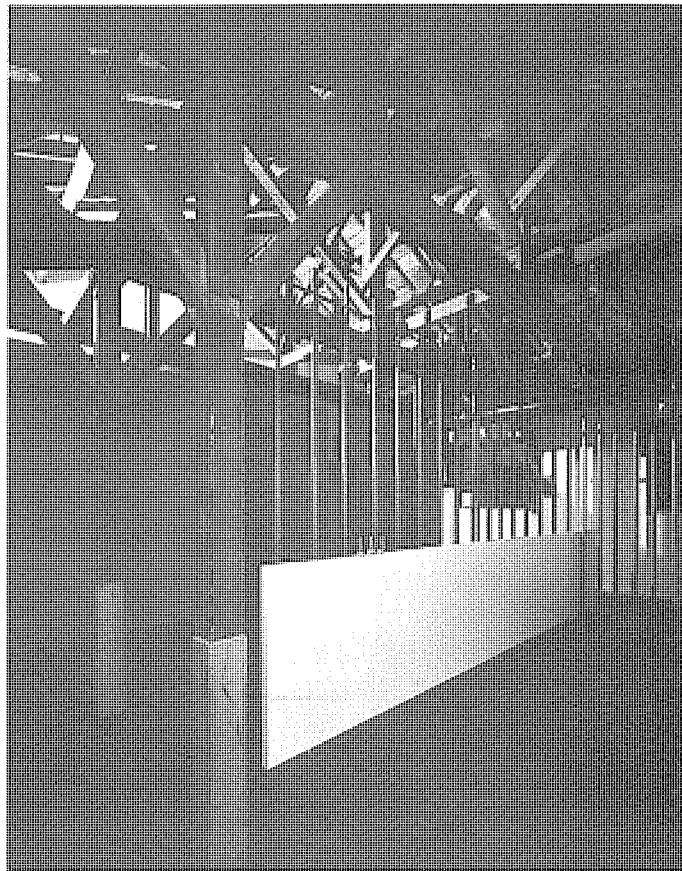
JCDデザイン賞 2000+2001

新JCDデザイン賞検討会

JCDデザイン賞2000は昨年6月9日(金)東京千代田区五番町のヤマギワ地下ホールで特別審査員にフィンランドのデザイナー、シモ・ヘッキラ氏を迎え、228点の応募作品により審査会が行われ、各審査員の評価もさまざまに厳しい審査結果となり、応募10部門中6部門に優秀賞(部門最高賞)が選出されず、新設された「JCD新人賞」も該当なしの結果となりました。関西地区からの応募は27点(入賞7点)で、大賞に橋本健二氏の「橋本工務点」が新旧素材の組み合わせ、空間利用のエコロジカル性を高く評価され、特別審査員のシモ・ヘッキラ賞には小泉誠氏の「2つの仮設空間 黒田泰三/花岡 隆」がダンボールによる展示空間のヒューマンな素材と実験性を評価され、後進への刺激と日本的な空間性への関心を際立たせました。個人的には特別賞となった庄野泰子氏の「潜在する海の音」"Wave" "Umi-Tsukushi"は、海浜に仕掛けられた、五感にアクセスする音を視覚化した環境装置で好感が持てました。この三作品は「商」という空間概念からは少し逸脱していますが、それぞれにエコロジカルな要素を包含しており、時代と空間の断面としてのデザイン行為において、社会背景としての環境への対応が高く評価されているのが窺えました。



小泉誠氏「2つの仮設空間」



橋本健二氏「橋本工務点」

2001新JCD デザイン賞検討会

商環境デザイン賞から、JCDデザイン賞と名称を変えて7年、さまざまな議論が交わされながら、新たな領域を拡大し10の応募部門を構成してきましたが、新世紀を迎え、商環境の状況も加速度的に変容しており、これまでの空間種別の応募カテゴリーでは適合しにくくなってきており、今年はJCD創立40周年の節目の年でもあり、応募部門、審査員の人選や審査の方法、広報や発表方法にも刷新が期待されている状況でもあり、JCDデザイン賞委員会では、昨年の7月より12月まで毎月1回新JCDデザイン賞検討会を開催し、2001年3月「新JCDデザイン賞」応募要項を決定、発表いたしました。

新JCDデザイン賞策定の主旨は、これまでの20世紀型商環境デザインの空間表現の美的・技術的卓越性への偏重から、「商環境プログラミングの豊かさ」や「業態や商行為の革新性」・「新たな(コト)を引出す力」などの評価軸が追加される必要があり、半数の審査員の改選、応募部門の改定、公開審査の新設などを打出し、新たな審査員には建築家の青木 淳氏、インテリアデザイナーの藤江和子氏、大阪市立大学の橋爪紳也氏、そして特別審査員として今年度は山本耀司氏を迎え、活発な審査が行われることを期待しています。公開審査会も初めての試みで受賞という結果だけでなく、審査の過程で交わされる議論こそがあたらしいデザインの潮流を示唆しているものとして注目され、大きくメディアの刺激となることでしょう。また、コミュニケーション委員会と連動して、賞の審査発表後に受賞者を招きパネル討論などの企画も考えており、会員の皆様の積極的な参加を期待しています。

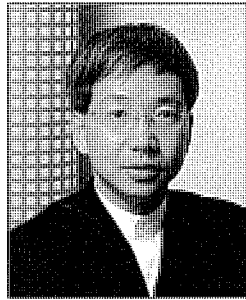
(デザイン賞委員会 郷力 憲治 記)

かおる
面出 薫

株式会社 ライティングプランナーズアソシエーツ
代表

東京都渋谷区神宮前5-28-10
TEL：03-5469-1022
FAX：03-5469-1023

関東支部理事
JCDデザイン賞委員長
日本建築学会、照明学会、都市環境デザイン会議、他
趣味：飲食、旅行、スポーツ、新内

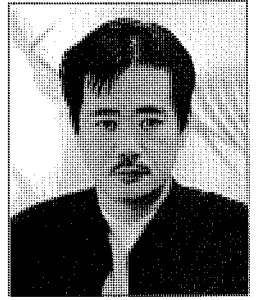


まえだ としあき
前田利昭

(株)丹青IDS
取締役

東京都台東区上野5-2-2
TEL03-3836-7685
FAX03-3836-7672
e-mail tmaeda@tanseisha.co.jp

関東支部理事
本部総務委員長



趣味：乱読書、CG、油絵、自転車

KANSAIへの色々な想い

里吉さんから1000字ほどの原稿依頼。さぼっていたけど今日5日が締切日だという催促が届いて、あわてて愛用のモバイルギアを取り出しました。今、明日オープニングを迎える仙台メディアテークの現場に向かう東北新幹線の中です。

私の仕事は光のデザイン、といっても関西支部の方々には、きちんと私の仕事についてPRしたこともないので、幾つかの仕事の実作をご紹介します。思いつくままに……。大阪地区では、南港のWTCや最近できた海洋博物館、難波のO-CATとそれに続く地下通路、古くは新梅田シティの基本設計もそうかな。今は中之島に計画中の関電本社ビルも楽しくやっています。神戸ではハーバーランドのMOSAICや神戸ファッションプラザ、京都では京都市コンサートホールやJR京都駅ビル、奈良では奈良100年館などが代表的な仕事になります。どれもどれも楽しい思い出と苦い思い出が同居しているものですが、確かにKANSAI特有の共通する人間関係を体験しました。

やはり、おしなべて関西はケチです。ケチは高く評価される場合と、そうでない場合があります。ケチはコスト・パフォーマンスに価値を置く哲学ですから、デザイナーにとっては当たり前の厳しい条件を提示するわけですが、こと「光のデザイン」などという正体不明(に見える)なものについては、常に懐疑的に見られます。「このオッサン、何言うとんねん」という視線をひしひしと感ずることが少なくありません。しかし一度納得すると大胆な結論を出すのもKANSAIです。KANTOでは「それで行きましょう」と言っておきながら、後でそうならない場合もあるのですが、KANSAIはフンギリがいい。私には関西言葉が厳しく聞こえる傍から、YESかNOかがよく解らない関東言葉より、よっぽど合理的、気っ風がいいのは世界観の広さなのでしょう。

まあ、おだてたりけなしたりしていますが、明らかなのはKANSAIの方が元気がいい、ということです。私はJDCだけでなくJUDI(都市環境デザイン会議)という団体にも組みますが、まあ関西ブロックの元気の良さのことといたら破格です。この元気のもとにはKANSAI特有の反骨精神と遊び心の発露だと思ふのですが、半端ではありません。このKANSAIのバイタリティとアクの強さには降参です。関西支部の皆さん、お手柔らかにお願いしますませませ。窓の外が一変して雪景色になりました。

拝啓 関西支部会員 殿

JCD本部も手作りのオフィスが昨年11月できあがり、新たな装いのもとでいくつかの会合が以前とは違う雰囲気で開催されました。この調子で進めば新生JCDの誕生ということになります。まさに、21世紀のスタート地点に立つことができたともいえます。

そこで、私たちを取り巻く激動の社会変化をみますと、20世紀は周知の通り大変な科学進化がありました。それもこれも石炭から石油資源に産業の基盤が変化したのがきっかけです。その20世紀の〈すべて〉を決定するほどの不可逆的な科学的発見や技術革新、そして流通革新は、実のところ、20世紀の前半部に、ほとんどのものが姿を現しました。そして大変な発展を遂げたのです。

21世紀になった今、同様に21世紀を決定するすべてのことが、この20年くらいの間、姿を現していくのかどうかはわかりません。だからといって、20世紀後半から継続して、今あるものが今後とも、そのままであるづける保証もないのです。20世紀後半、多くの持てはやされた商環境は、まるでそれが「嘘」であったかのように、跡形もなく姿を消してしまうことになるかもしれないのです。時代変化の価値観の視点から捉えると、今、ほんとうに「商環境」に求められているものは、小宇宙的に存在する限られた文脈のなかで通用し、そのなかで獲得した既得権としての「商環境デザイン」に安住する方向性がないことは明らかです。もちろん、世界の冷戦崩壊以後、にわかには敷かれた〈グローバルスタンダード〉に乗るかたちで20世紀にある程度完成をした計画技術やシステムを商環境は利用することでもないだろうし、利用されるだけのことでもないはずなのです。

このような時だけに、JCDは商環境を通して、新たな出発点としての標を業界に発信して行く必要があることとなります。そこで関西支部の諸兄に提案があります。

今、本部から発信しているCLIPPING NEWSのネットを活用して皆さんの意見を発表してはいかがでしょうか。一つの見解に対して賛否両論を戦わせ方向を見いだしてはみませんか。たとえば見いだすことができなくても交流というプロセスに奥行きが生まれてくると思います。

「今、私はこのように考える」をテーマにインターネットで会員の環を広げていきませんか。

いかがですか。

敬 具

WELCOME to KOBE

震災復興の姿を見てもらおうと、神戸市では神戸21世紀・復興記念事業が1月17日からスタートしています。花と光りで街をお化粧し、もてなしのイベントを市民主導で開催しています。

私は、8割復興と言われている商店街と市場の活性化を推進して行く中間支援組織の立ち上げに奔走しています。震災後、まちづくり・福祉関係のボランティア活動が盛んになり、現在でもNPOを設立して継続しているが、商店街のサポート組織は根付きませんでした。行政もこれ以上面倒見切れなかったと言ったスタンスで、かといって都心の空洞化を放置出来ない。

建築家を中心とした支援組織も商業は苦手らしく、余り関わりたくなさそうです。そんな訳で商業が分かる街づくり専門家としてボランティアをさせられつつある今日この頃です。

神戸 一生

【思い出したい、あの日のこと】

最近忘れかけていた、6年前の阪神淡路大震災被害が大きかった東灘地域だったが、建物が新しくなったので被害が少なかったが、それでも仕事が軌道に乗るまでには3ヶ月以上かかった。今だから笑って話せるが、震災後10日ぐらい経って、3時間かけて大阪へ家族で食事に行った時の焼肉とビールの味が忘れられない。今一度あの時の味と巡り合いたいと毎夜ビールを飲んでいる。

追伸 会員の皆様へ震災は必ず貴方にもやって来ます。備えを怠りなく。

嶋原デザイン事務所

嶋原 英夫



昨年12月ドイツとウィーンを訪れました。ヴィスコンティ監督映画「ルートヴィッヒ」一神々の黄昏—の記憶を辿り、ルートヴィッヒ二世が若くして謎の死を遂げた湖を見る。ウィーンでは19世紀末華やかだったセッションの痕跡とフンデルトワッサーの建築を見てまわった。市庁舎前の広場にはクリスマスの市がたち、夜は美しい光にまつまっていた。

藤谷デザイン事務所 藤谷明正 fujitani@pop16odn.ne.jp

あらはた
元気です・・・只今、充電中

都市設計連合・商業計画研究所在籍中は皆様方には一方ならぬご厚情ご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。なお、まだ暫く事務所開設には時間を必要としますが、今後ともよろしくご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

作業場
只今
準備中

お近くに来られた時は是非お寄りください
小さな作業場ですが
ぼちぼち
始めようと思えます

〒530-0045
大阪市北区天神西町3番11号 カランドリエ602
TEL 06-6130-5522
FAX 06-6130-5523
E・mail acsd-box@arion.ocn.ne.jp



荒畑・商環境デザイン研究所
Arahata Research Institute of Commercial Surroundings Design

「TMOと世界のまちづくり」



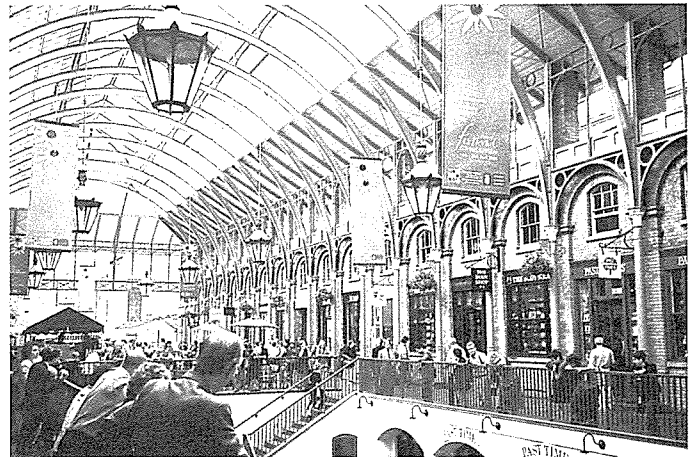
「第3回タウンセンターマネージメント世界会議」

A	不動産業や小売業、レジャーによる中心市街地の再生
B	フェスティバルや式典の役割
C	交通問題の統合
D	将来のパートナーシップ
A2	事業所や住宅開発による中心市街地の再生
B2	タウンセンターマネージメントにおける中小企業の参画
C2	近隣と地区との問題解決
D2	将来のパートナーシップ2
E	歴史都市とツーリズム
F	中心市街地持続のための財源
G	テクノロジーと中心市街地
H	中心市街地の運営

3英・独のまちづくりとタウンセンターマネージメント

「計画なければ開発なし」という考え方のイギリスやドイツのまちづくりは、詳細な土地利用計画による利用規制であり、市町村が土地利用計画の策定主体となり規制する権利を持っている。どこかの国のように乱開発の後追いで利用計画が出来上がるわけではない。

イギリスでは1980年中頃から中心市街地の空洞化が顕著となり、これに対して中心市街地への投資を増やし、魅力を高めていくことが重要であり、TCMの必要性が認識されてきた。中心市街地には多くの歴史的な建物があり、その景観的な価値による美しい町並みを形成し、多様な機能を持った施設が集積することによって、人々との交流を促進し魅力ある場所となるという認識である。



「ロンドン中心部のコンベトリー再開発」

中心市街地活性化を推進していくTCMは、米国のタウンセンターマネージメント手法であるCRM(SCでの統一的なマネージメント手法をダウンタウンの商業活性化に導入)と同じ手法である。郊外のショッピングセンターでの成功要因を中心市街地のマネージメントに活かしていこうというものである。

米国では、中心市街地活性化を推進する制度としてスペシャル・ディストリクト(特別行政区)があり、これは自治体が事業主体で柔軟性や機動性に欠けるため、民間主導型のBID(街づくり機関)が誕生した。イギリスにおけるTCMは自治体が主体であり、民間や地域コミュニティとパートナーシップを組んで中心市街地の振興を図る組織である。したがって、参画した人々やグループ等間のパートナーとしての関係づくりの強化が、TCMの主要な任務となるわけである。

米国のBIDは州法によって存在し、課税権や料金徴収権を持ち、区域内の関係者は強制加入となり、強力な組織となっている。これに比べると、TCMは組織が脆弱で常に財源問題がつきまとうこ

1.我が国初参加のタウンセンターマネージメント世界大会

昨年6月14日から16日の3日間、イギリスのロンドンで、我が国も含めて世界23カ国からタウンマネージメント関係者約600名が参加し、第3回世界会議が開催された。我が国を代表してタウンマネージメント推進協会の小原事務局長が基調スピーチを行い、他各国からのスピーチなどまちづくりについての活発な議論が展開された。

我が国からは全国商店街振興組合連合会の小林専務と団長として、欧州中心市街地活性化研究の第一人者である長崎県立大学の横森教授、中小企業庁、全国中小企業団体中央会、日本商工会議所、地域振興整備公団、他タウンマネージメント関係者らが日本代表団として参加した。

会議プログラムは代表スピーチの他に、パートナーシップや交通問題など12のワークショップ(分科会)、ロンドン中心部の再開発など4つのスタディツアー(視察会)等が実施され、現状における取り組み内容やその問題点、今後の課題について説明・討議がなされた。

平成10年に施行された中心市街地活性化法から本格化した我が国のタウンマネージメントの取り組みと比べて、欧米のまちづくりとは歴史や実績にかなりの差があり、我が国にとって多くの学ぶべきことがあることを理解できた。

2.ワークショップでの活発な議論

全体会議でイギリスの国務大臣は、90年代以降、中心市街地活性化を政策の中に取り入れ、環境や治安、コミュニケーションなどの広範囲な問題に対応し、今後は電子商取引等が進展していく中で、その重要性を強調していた。

具体的なテーマ毎のワークショップ(分科会)では、各都市のタウンマネージメントがそれぞれの事情を説明し、質疑応答が行われました。このワークショップの中で特に注目されたのが、「中小企業の参画(Involving Small and Medium Sized Enterprises [SMEs] in Town Center Management)」についてである。

米国のダウンタウンにおける賑わいや魅力の向上に不可欠な小売業の維持・活性化の必要性は、同様に今回の会議でも議論され、中心市街地活性化における中小企業の役割の重要性が指摘された。

しかし、問題点や課題も多く、SMEsはタウンセンターマネージメント(TCM)活動が自治体や国家レベルのものであるので、あまりにも無関心になっていることや、パートナーシップへの賦課金の提供の困難などが指摘され、各国共通の問題となっている。

他に下記のようなワークショップのテーマで議論され、我が国との差があまりにも大きいことをあらためて認識したわけである。

どになる。こうした欧米それぞれのタウンマネージメント組織のあり方は、我が国のTMOづくりやコンセンサスの形成づくりに参考になるものである。

4. イギリスの中心市街地活性化

第3回世界大会に参加した日本代表団は、欧州12都市の中心市街地を視察。イギリスではロンドンの中心部の再開発を始め、グレイブセンド、ノッティンガム、コベントリー、オックスフォードの5都市。ドイツではミュンヘン、フランクフルト、シュツットガルト、カールスルーエ、バーデンバーデン、ハイデルベルク、ダルムシュタットの7都市。

まちづくりについての理念や方法、土地利用計画、タウンマネージメントの目的などの説明を受け、具体的な中心市街地再開発や歩行者専用区域の導入、パーク&ライドなどの駐車場対策、低床式路至電車の充実、観光商業の整備など、多くの成功事例を視察。

(1) グレイブセンドの事例

人口約9万2千人のグレイブセンド市の中心市街地「グレイブセンド」は、ロンドン中心部から約40km東のテムズ川河口部南岸に位置している。

セントジョージSCを中心に小売店や飲食店、サービス業、事業所等約500が集積。中心部周辺には駐車場が4,000台分確保されている。周辺にレイクサイドSC(90年・売場面積約12.3万㎡)やブルーウォーターSC(99年・売場面積15.3万㎡)がオープンしているという環境である。中心市街地空調化への対応を91年TCMを設立し開始した。



「ショッピングモビリティ」

具体的な対応策は次の通りである。

1	中心部一帯から車を排除した歩行者専用区域の設定
2	歴史的建築物の外観修復による街の魅力の向上
3	中心部に隣接した駐車場の整備
4	街の美化
5	CCTVカメラの設置による安全性の確保
6	街路樹や花壇によるイメージの向上
7	イベントによる観光客の誘致
8	ショッピングモビリティの導入等

(2) コベントリーの事例

人口約36万人のコベントリー市は、ロンドンの北西約140kmに位置し、毛織物や時計産業で栄え、現在自動車産業や自動車産業等が盛んな工業都市。

中心市街地は80年代初頭頃から郊外商業施設との競争激化により大きく衰退。80年代後半から右記のような再生戦略を策定し実施。



「エンターテイメントイベント」

1	バランスのとれた業種・業態構成
2	アクセスの容易さと便利さ
3	魅力的で安全な環境
4	適切なマネージメントによるプロモーション・エンターテイメント等

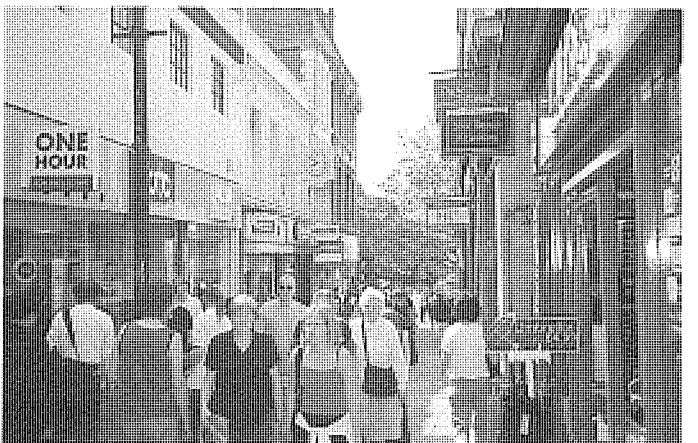
(3) ノッティンガムの事例

人口約29万人のノッティンガム市は、イギリス中央部に位置し、繊維産業や炭坑で繁栄した都市。

中心市街地の真中に市役所とオールド・マーケット・スクエア(広場)があり、ここを基点に南北にそれぞれショッピングセンターがある。この2つを繋ぐような形で中心市街地の道路は歩行者専用となっており、魅力あるショッピングモールで街は非常に賑わっている。駐車場は核施設である2SCに約3,000台をはじめ、中心市街地の周辺部に計1万台以上が確保されている。ショップモビリティも充実している。

商業については、2SC以外に大型施設が15、5つの百貨店、500㎡以上の店舗が201、3つのアーケード街、個性豊かな店舗がはりついた路地などがあり、魅力的な中心市街地となっている。

ノッティンガム・シティー・センター・マネージメント(CCM)は、ビジネスプランを2年毎に策定し実施に移している。



「魅力ある店舗が並ぶ路」

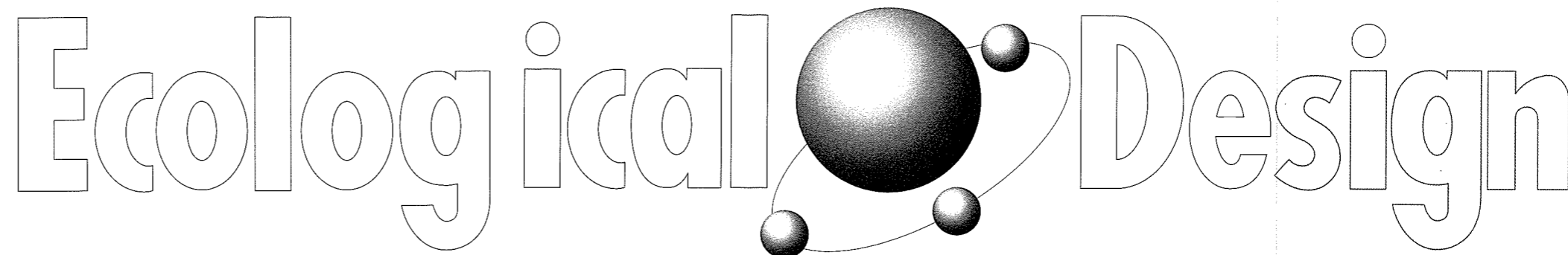
最新のプランは下記の通りである。

1	中心市街地の再活性化の促進・助成
2	中心買物・レジャー地区としてのプロモーション・マーケティング活動
3	街路景観環境とアクセシビリティの全般的改善
4	中心市街地利用者へのケア促進と犯罪恐怖の緩和
5	中心市街地に関心のある人々とのコミュニケーションの促進及び参加の促進
6	タウンマネージメントの模範事例の展開7 中心市街地及びCCMの成果のモニター

エコロジカルデザインの視点

(株)レオナルド建築設計事務所 和田 嘉久

Ecological Design



地球環境の問題が建築の世界で叫ばれ始めてから、10年以上が経過しているが、重要性の認識は広まりつつも、具体的な手法等で試行錯誤をくりかえしている。

97年12月の地球温暖化防止京都会議や一連のダイオキシン問題が起りここにきて変化の兆しも現れている。省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)の改正で暖冷房用エネルギー消費量を住宅で約20%、非住宅で約10%低減するという基準が示されたり、製造業など自社のイメージ向上を狙って、ISO基準を取得し環境対策を推進しはじめているのは事実である。「エネルギーや資源が自由に使えない」「廃棄を自由にさせない」など対応を強く求められている事も、御存知の通りである。

20世紀は人間が次々と環境の殻を破って活動の領域を広め、範囲が大きいくほど効率が高いという規模やメリットや効率を高めるために物事を単純化するなどに支配されてきた。このシステムが環境を危機的状況に追いやった直接的のきっかけと思われるが、生活空間を宇宙まで広め、医学、バイオテクノロジーで生命観をかえさせるなど、技術体系の関係を考えねばならない時代に突入したのである。

環境の不調を回復し持続可能な社会にするためにシステム全体の安定性が基本となる。

無限のエネルギーと物が供給され消費する事を前提とした今までの体

系をエネルギーと物の消費にともなう負荷(環境負荷)を循環サイクルが維持できる処理能力(容量)の範囲内に限定する中で、最大の効率・サービスを得られる技術体系にする必要がある。

そのためには、いつ、どこでどの様な環境負荷が発生しているか知る必要がある。

環境性能指標とした「グリーンビルディングチャレンジ」(カナダ)にもとずいて東京都は建物の屋上部分の緑化の義務づけを始めている。

地球温暖化・廃棄物・水環境・大気環境・有害化学物質などさまざまな環境負荷を建築レベルで対応するとすれば

(A) 建築使用、住居に関わる省エネルギー

—— 暖冷房・換気・空調・照明・給湯など

(B) 建築の寿命を伸ばす

(C) エコマテリアルの使用

—— 負荷の小さい建材・リユースやリサイクルが可能な
建材の選択・使用

が有効であるといわれている。

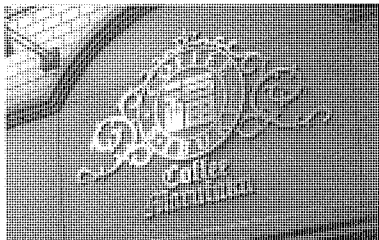
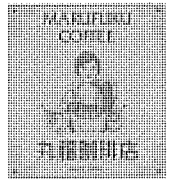
大量の化石エネルギーによって作られて来た人工環境をどの様に自然の風や光をとりこみ、循環型の快適な空間に再構築してゆけるのか、新しい提案が求められている。

(資料) 地球環境建築憲章
(日本建築学会 他)

好い味 好い店……私の一押し



大阪を代表する珈琲専門店



くいだおれの大阪にあって喫茶店が数ある中で
“一粒の豆、一杯の珈琲”
にこだわり続けるのが丸福珈琲店である。

丸福珈琲店は、大阪・千日前に於て昭和9年の創業以来、珈琲一筋がこんなまでに独特の自家焙煎と秘伝の抽出による芳醇香味にこだわり続ける浪花の代表的老舗珈琲専門店として有名である。ブラックで一口飲めば深いコクとまったりとした風味が味わえる。

又店内は昔ながらの木造のインテリアで歴史を感じさせ珈琲独特の深い香りが見たよ、いっときの“ほっ”とした清涼感が味わえる。

一度、浪花の珈琲を味わってみては……。

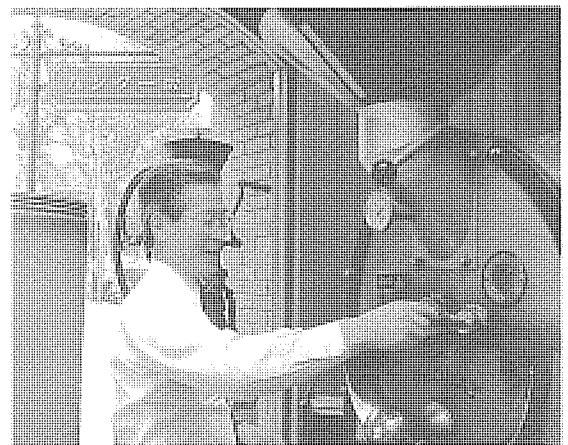


山田 悦央

■神戸／宮水の珈琲 にしむら珈琲店

にしむら珈琲店は現在、中山手本店、センター街店、三宮店、阪急駅前店など13店舗に及ぶ。宮水と自家焙煎とウッディーなインテリア、厚手のマグカップ風カップに香り高い珈琲をたっぷり入れてリッチな気分でおしゃれに時間を過ごせる店として、常連さん一見さんにも人気の高い店です。私が最初に入ったのは、阪急三宮から東門筋を上った中山手本店です。次の馴染みがセンター街店で、ここは地下で25坪ほどの店内に何時も、タバコの煙と珈琲の香りが入り混じり、サラリーマン、商店街の店員、買物の奥様、時に外国人も居て何か異国の雰囲気を持っています。今これを書いている店は私のアトリエの近くの御影店で、建物もインテリアもいい。2階に石焼ステーキ「みかげ館」があり、家族の誕生会に私も使っています。いずれも神戸自慢の「にしむら」です。ブレンドコーヒー¥450- カフェオレ¥500-。神戸にお立ち寄りの際には是非どうぞ。

お薦め人◆小宮容一

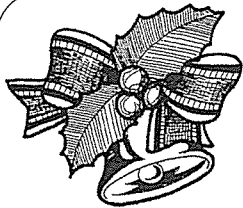
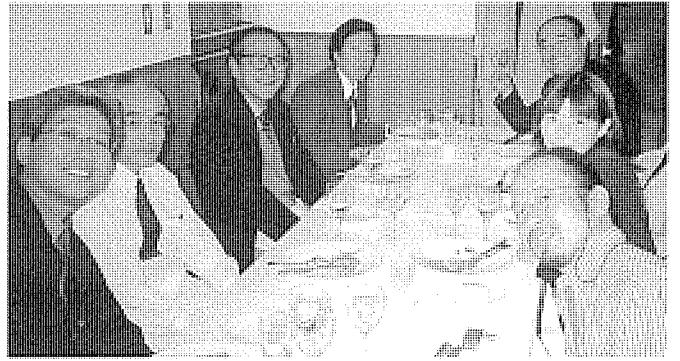


創業60年の 落ち着きのあるカフェ イノダ本店

京町屋の格子戸 のれんをくぐり店内に入ると
大きな丸テーブルに コーヒー好きの人と人が
静かに憩う 柔らかな雰囲気 高い天井
ヨーロッパのカフェの独特の楽しさを演出している。

「アラビアの真珠」は開店時からのオリジナル
コクのあるヨーロッパタイプ(440円)
「ジャーマン」は深焙りの上品な香りなのに重厚(500円)
究極のコーヒー好きが 京都 で出会える真珠です
京都に御見えの折 是非。

株式会社 レオナルド建築設計事務所 和田 嘉久



20世紀最後の クリスマス 2000年12月5日 パーティー!

今年は、“うまいもんをじっくりと味わえる食事主体で”
と言うことになりまして、“それやったら、この9月1日あ
べのに誕生した新ファッションビル『Hoop』にできた
“KIHACHI ITALIAN.”なんかどないでっしゃる、あの熊谷
喜八さんが総料理長で、関西初出店!”。“フンフン!、そ
やねえ”てな調子で、段取り良く開催場所が決定しました。

当日は食事の前に、施設見学と説明会を併催。大阪地区
最大のビームスや無印良品はじめ、人気セレクトショップ
のトゥモローランド等々53店舗がバラエティ豊かに揃っ
た素敵な店舗を見てまわり、その後事業主の近鉄百貨店
Hoop事業部、瓜生部長から「開発のねらい、MDコンセプ
ト、施設の特徴、営業概要」などのお話を伺うことができ
ました。

18:30 参加約50名がシャンペンで乾杯し、華やか

にパーティー開始。前菜から始まり、グラスにフランスワ
インが注がれて宴もたけなわほろ酔い気分の頃に、メイ
ンディナーの牛肉料理がテーブルに運ばれ“からだに安全
で美味しいものにこだわる” KIHACHIの精神、“シンプル”
なイタリア料理の持ち味を活かした、ざっくりとした素材
感と季節感あふれるKIHACHI流のイタリアンをたっぷり
堪能しました。

そして、楽しい歓談の時間もあっという間に過ぎ去り、デ
ザートを楽しみながら恒例のX'masプレゼントの交換。
最後に、“共に21世紀を明るく元気に迎えましょう”との
挨拶で、御開きとなりました。一年の経過をあらためて実
感させるのが年末年始、今回は20世紀の締めくくり、皆
様には例年にも増してさまざまな思いで過ごされた一夜だ
ったと思います。

(組織委員会 大森 貴夫 記)



The 20th Century

イモノ・コト・21世紀に伝えたい

(20世紀を送る 展示と講演会) Farewell Show



日時/12月2日(土)~5日(火)
会場/ATC・ITM棟10階デザイン振興
プラザ・デザインギャラリー
主催/USD-O 大阪デザイン団体連合

USD-O(大阪デザイン団体連合)主催の2000年度事業として20世紀最後を飾るデザインイベントが開催されました。

(JCDは実行委員会の総務を担当しました。)

コーナー1(楽しむ) 20世紀を[紙技]で伝える
コーナー2(観る・想う) 21世紀に伝えたい20世紀の[◎]
コーナー3(聴く) 知的発想を発掘する

展覧会総入場者数 559名

セミナー・パネルディスカッション 参加者48名

オープニングパーティー 参加者114名

展覧会出品数 88点

(組織委員会 白井 進 記)

以上の3本立てで行われ、JCDからはコーナー1に郷力、山田、白井の3会員が作品を発表しました。

子供の頃からなれ親しんだ自然で優しく、伝統的な素材<紙>を使って21世紀に伝えたい想いを込めたさまざまなカタチ…みんな力作ぞろいです。出品総数は88点にのぼりました。

オープニングパーティーはUSD-Oお得意の手作りパーティーです。力作が居並ぶ展覧会場をパーティールームに仕立てて大盛況でした。

20世紀最後のクリエイティブなメッセージは楽しく、かつ十分に響きわたったようです。





絵馬展

新春吉例の第21回DDA・JCD・SDA 合同チャリティー絵馬展は、今年もOAPタワーの1Fエントランスホール特設ギャラリーで開催されました。毎年この絵馬展を楽しみにして来場して下さる方も増え、設置の時に「待ち遠しくて!!」という言葉をかけてもらい思わず嬉しくなりました。

オークションにも慣れてこられたのか、1,600円、2,100円という金額を入れてわずか100円～200円という差額で欲しい絵馬を落札するという方も増えてきたようです。今年は新世紀にちなんで2,001円という価格も目立ちました。

これまででは子供さんたちの手によるほほえましい作品が多く見られましたが、今年はそれも数少なくなり、全体に手のかかった力作がそろっていたように見受けられます。



JCDの作品に総数は90枚で昨年より少なくなっていますが、26人の会員が約半数の48枚を出品してくださいました。それ以外に、会員御自身や会員のお知り合いの絵画教室の先生を通じて、生徒さん達が描かれた作品もたくさん寄せられました。

少しずつではありますが、この絵馬展を通じて人と人のつながりが広がりつつあるようです。

今回、出品してもらえなかった会員の皆様、一年に一度は小さな絵馬展にメッセージを託して、来年はぜひ参加してみてください。

(組織委員会 白井進 記)

日時/平成13年1月13日(土)～1月21日(日)
総入場者数/1,523人
入札数/139
落札数/58
義捐金総額/163,623円

Home Page

JCD関西支部ホームページ開設について検討報告

本部理事会で支部ホームページ開設について至急検討するように提案がありました。関西支部では情報委員会内に特別委員会を設置し、他委員会からの出席を求め、

1)目的、2)運営方法、3)コンテンツ、4)本部とのリンク、5)会員とのリンク、6)運営上の規制・ルール等について検討しました。

(1) 本部ホームページの内容

HPアドレス <http://www.jcd.or.jp/>

1) 協会概要

- ①目的と主な活動(JCDデザイン賞、シンポジウム等)
- ②運営組織(理事会、本部委員会、支部)
- ③会員名簿(役員、歴代役員、正会員、賛助会員)
- ④歴史(協会活動、デザイン賞)
- ⑤事務局(所在地、地図)

2) JCDデザイン賞99(受賞作品の紹介)

3) JCDデザイン賞98(受賞作品の紹介)

4) 支部組織(支部名と所在地)

5) 電腦情報広場 オープンディスカッション、新入会員募集

6) 関連リンク 関連団体。会員・会員会社HP等

(2) ホームページ開設の意義

社団法人として組織概要、活動内容を広く社会へアピールすることは必要ではあるが、所属する会員の情報発信(営業)とどうリンクさせるかについての議論が不足したまま開設している。団体としての社会性と会員の営業ツールをどう融合させて行くのが課題である。

(3) 特別委員会の検討結果

①現時点では関西支部ホームページを開設せずに、本部ホームページの支部組織ページの内容を充実させ、支部行事の開催内容、委員会活動を掲載する。将来的には、JCD関西をホームページにシフトし、情報委員会が担当することも考えられる。

②現在の会員名簿からのE-メールアクセスは余り意味がなく、会員のホームページ開設を奨励し、会員ネットワークを充実させる。

(4) 今後の展開

JCD関西支部からの情報発信、会員ネットワークの構築のための情報メディアについて、引き続いて研究、検討して行く。

(情報委員会 神戸 一生 記)

2001 JCD賀詞交歓会

21世紀がはじまって間もない、1月24日(水)午前9時17分の新幹線で1人東京へ向かった。

午後1時からの第3回目の臨時理事会とJCD賀詞交歓会に出席するためだ。議題はAPSDA'96の最終的な結論を出し終束させること、会場は今までの麹町の都市センターホテルではなく、昨年11月に移転先として本部が苦勞された、千代田区外神田の新しい本部事務局となっている。前理事会の折、前田総務委員長より概略は聞いていたが、訪れるのは今回がはじめてで、東京駅についてJR山手線に乗り換え神田駅で下車、FAXの地図をたよりに目的の方向へ少し進んだ瞬間、地図と街が整合しないことに気がついた。違う！FAXを再びよく見ると「神田」ではなく「お茶の水」とあるではないか？私の認識として「お茶の水」は文京区なのである。神田駅へ引き返しJR中央線に乗り換えお茶の水駅の改札を出て直進、右手に外神田会館を探しながら歩くがどうも様子が違うので交番で場所を聞くと、はるか後方の川向うではないか？神田川は地盤面よりかなり下を流れていて落差が大きく、お茶の水の駅も低い位置にあり、プラットホームには古い大きなアーチ構造があり、階段で地上に連絡している。理事会の開会時刻も迫っており、急いで橋を渡り東京医科歯科大学の前から湯島聖堂の井を見ながら会館を探すが解らない。101号室となっているので1階の事務所らしいところを訪ねるが、それらしいところは見つからないでいると、北海道支部長の間宮さんが反対方向からみえたので内心「ほっ！」としながら2人で事務所探しを始め、ふと階段の下へ目を移すと細長い見馴れたロゴのサインが目にとまった。神田川へ向って少し階段を下ったところに我JCDの新事務所(アジト)を発見。時刻はすでに午後1時になろうとしていた。

午後3時30分臨時理事会は無事終了、いよいよ恒例の新春顔合せの会が始まった。理事会出席は小谷監事を含めて14名、黄色い大テーブルは分割され、中央のテーブルには祝いの「こもかぶり」が置かれ、朝枝、北村、古畑各名誉会員をはじめとし、JCD会員32名、賛助会員12社21名の出席に加えて、関連団体として、(社)日本インテリアデザイナー協会より阪井良種氏、東京インテリアプランナー協会、中川誠一氏と大満浩氏、(財)店舗システム協会、保田純子氏と戸塚達美氏、東京ディスプレイ協同組合、永井朔氏、出版報道関係より、てんぼ流通新聞社、木下壽國氏、(株)日本店装新聞社、青山純江氏、産業タイムズ社、花塚昌子氏をはじめ六耀社、中原君代の各氏を迎え、総勢63名と会場溢れんばかりの熱気に満ちた盛会となりました。

会は野村理事長の挨拶の中、JCD2001年のスローガン「和と環」が掲げられ、会員各位の和やかな団結力による、より一層の会の活性化を促進させ、外に向けて更にもう一つの大きな環をつくり出しゆく影響力の軸となることを示された。JCD創立40周年目、節目の年でもあり他団体との交流も積極的に推進し、それぞれの存在価値を明確にしなが、健全な商環境の育成と発展をサポートし、協会設立時の使命と気概を風化させることなく、地域社会への貢献をより一層推進しなければと思います。新事務所では月1回鍋を囲んでの「鍋塾」が、杉本副理事長を塾長として「和と環」の熟成がはかられており、地域の会員への呼びかけもされています。又、会員サービスの一環として、事務所のビジネス利用もはじめられています。支部と本部との距離を縮め、有意義であたかかさのある協会活動を展開して行きたいものです。

(理事 郷力 憲治 記)

コアトーク in OSAKA

賛助会員の大光電機が主催する「コアトーク in OSAKA」にJCD関西支部では講師派遣と言う形で参画しているが、7月の小宮容一氏に続き、10月にはインテリアデザイナーの黒瀬 勉氏を招いて、第57回コアトークを開催した。黒瀬氏は、ずっとコンピュータを使って設計をしていなかったが、最近やっと道具としてコンピュータを使う事になったが、その発想の原点は自分自身がもう一つのフィールドとして活動している、ファインアートの世界から影響を受けていることが多いと語り、コンピュータで設計した後、現場から出てきた埋蔵物を活かして設計変更するなど柔軟な発想をし、コンピュータは道具として重宝しているが決して発想の源ではないと説いた。

引き続き今世紀最後のコアトークは12月15日、英国人建築家トム・ヘネガン氏を招き、建築のロジックとファンタジーをテーマに語っていただいた。気さくな建築家トム氏は持ち前のユーモアとジェスチャーでオーディエンスを笑わせながらの建築論はわかりやすかった。「木」という大好きな素材を活かしての建築は、日本の建築の良さを引き出す格好の材料と唱え、また例え住み手が牛であろうと、住み手の立場、つまり日本建築学会賞を受賞した熊本県の農事試験所の牛舎の場合でも、牛の性格、生理を考えて牛の立場で設計したエピソードなどを交えての講演は、聞き手の建築家石丸信明氏の巧みなリードとあいまって、今世紀最後を飾るにふさわしい、コアトークであった。

次回は1月19日開催の、JCD会員の足立和夫氏のコアトークの模様をお伝えする。

(研究開発委員会 中尾 晋也 記)



JCD DAIKO



Design Symposium

プログラム I・II

JCD/DAIKO 連続デザインシンポジウム
SECTION 27 OSAKA
資本主義なコトとデザイン

日時：2001年2月21日(水) 5:30P.M~9:30P.M
会場：ザ・フェニックスホール

プログラム

- I JCDデザイン大賞2000 大賞受賞者記念講演
テーマ「橋本工務点」橋本健二
- II ライティングセミナーテーマ
「ライティングワークス」梅木 司
- III 東証アローズをめぐるプレゼンテーション
近藤康夫
- IV ドリンクパーティー

東京のSECTION26に引き続き、翌日の2月21日、梅田のザ・フェニックスホールで連続デザイン・シンポジウムが開催された。このシンポジウムは、時代の大きな変容に、空間、建築がどう向かい合ったのか、ということを通題テーマとして、過去7年間に25回開催されてきた。今回は21世紀の最初のシンポジウムということもあり、タイトルが変わり、「資本主義なコトとデザイン」と題して東証アローズを設計された近藤康夫氏をむかえ、モデレーターを飯島直樹氏がつとめられ、証券取引所のもつ機能と、空間、デザインのインタラクションについて語られた。

先立って、大賞受賞者の建築家、橋本健二氏の受賞記念講演と、ライティングデザイナー梅木司氏による、ライティングセミナーが開催された。出席は260名超え講演のあとのドリンクパーティーも、講演者を囲んで活気にあふれたトークが展開されていた。

毎年、JCDと共に連続デザインシンポジウムを主催していただき、全社をあげてサポートしていただいている大光電機(株)様の御努力に、厚く御礼を申し上げます。

プログラム III

「東証アローズをめぐる
プレゼンテーション」の要約レポート
プレゼンター 近藤康夫 モデレーター 飯島直樹

東京のSECTION26では、東証の斉藤宗孝氏と電通の斉藤淳一氏による講演があった。大阪では都合により近藤康夫氏だけの講演であったが、氏の要請を受けて、飯島直樹氏がモデレーターをかってでられたわけである。まず、モデレーターの飯島氏から、証券取引所がいかなるものかや、東証の再生や東証アローズができるまでの経緯の解説があった。

東証を取り巻く環境は、IT革命や金融の国際化、経済構造の変革を受けて大きく変化した。取引のコンピューター処理やコストダウンの要因を受けて、東証は閉場した。そこで、21世紀の東京マーケットの顔として、情報のインターフェイスや企業と投資家の出会い場として東証の再生が検討され、東証アローズが生まれたということであった。その後、近藤康夫氏を交え、東証アローズの空間デザインと証券取引所のもつ機能のインタラクションについての考察が行われた。

要約すると「見えないものを見るようにする。」ということがテーマで、一般の人々にわかりにくい、見えにくい東証の新しい機能や役割を、空間デザインとしてどう表現するかということが課題であり、企業イメージとして透明な東証ということが、キーワードとして求められた。近藤氏は、こうした課題に対して親しみやすさや、透明性、先進性をテーマに、一目に見て東証とわかるものを構築していった。そのプロセスの中で近藤氏は、東証アローズのイメージと自分のつくり方のジョイントを意識し、東証アローズの空間の中近藤康夫らしさを表現している。又、建築の中に建築をつくるという思いがあり、インテリアデザインという曖昧とした領域の中でいろいろな関わり合いを求め、自分の仕事の領域を拡大していこうとしている。

映像を使って、実際の完成した東証アローズやプレゼンテーションのCGを見せながら、デザインの考え方を解説したが、東証アローズの大きなガラスのシリンダーの中には、そんな近藤氏の熱い思いが集約されている事を感じた。

(研究開発委員会 金沢 明彦 記)

関西支部 2001年度 活動方針メッセージ

今年度のスタートにあたってのメッセージは、昨年秋に(テーマ:仕事の中身)を切口にスタートした談話室を各回ごとにサブテーマを設けて関西支部のサロン(倶楽部?)としてあらゆるコミュニケーションの場になるように定着させたい。

今後、“入会后1~2年のメンバーから見たJCD”や“評議員の大先輩からのひとこと”などを仕事の中身を中心に発表してもらい盛りあがったところで意見交換、という流れをアルコールを交えながら進行する。

つまり「何かひとこと言いたくなったら」=「談話室へ」というのを定着させようということだ。

また賛助会員の皆様、談話室の会場として立候補していただき、その折にショールームを見てもらったり新商品のPRもしっかりと行って下さい。

組織委員会 担当理事 白井 進

我々JCDも創立40周年という記念すべき年度であります。全国で一番元気な支部として、新年度にあたり皆様と一丸になって力強いスタートをきりたいと思っております。

関西における我々の業界はU.S.Jの開業または2008年大阪オリンピックの開催都市決定と集客都市をめざす大阪にとって非常に重要な一年であります。

我々JCDにとっても店づくりから街づくりまで会員が活躍できる場づくりの施策を構築し、この不景気を払拭したいものです。そして「陽気で、元気に、いきいきと!」をモットーに、この一年をやっつけていこうと思っております。

関西支部長 山田 悦央

会員が求める情報、市場が求める情報を発信して行く活動を、会員と共に進めたい。

1. JCD-Kansaiの内容を行事報告中心の編集から、会員の情報発信のメディアにする。その為に、JCD-Kansaiを会員と市場に配付する。
2. 委員会活動の活性化を図る為に構成メンバーを再編成して、定例会での情報発信能力を高め、個人の感度を磨く場にした。
3. 関西支部ホームページ開設について懸案事項になっており、ホームページ開設会員の意見を参考にしながら、結論を出す。

情報委員長 神戸 一生

○「ベーシックなことを確実に」…例年研究、情報、組織の3委員会の毎月の定例委員会への出席、他団体関連、支部その他事業や本部委員会、理事会への出席で年間50日、各委員会間の調整、支部の皆様が目に見えない各種事務業務の消化、元気な支部長のサポートと今年も莫大な時間と作業だが、JCDの改革、活性化を問われるなか、こんな時ほどベーシックなことを確実にお手伝いできればと。

○「新入会員のふれあいのきっかけを」…ここ2、3年の間に入会した会員の交流のチャンスの場を企画できれば。

○「アカデミックなテーマの追求」…研究開発委員会は金沢委員長を中心に、アカデミックなテーマの追求が始まったところ。今年はそれらをそろそろ発表の機会を。委員会の活動をより促進できる環境づくりをとおもう。

副支部長 研究開発委員会 担当理事 里吉 明

21世紀を迎え、新エネルギーの開発や遺伝子の研究、地球のメカニズムの解明、IT革命等、科学の進歩はめざましいものが予測されています。一方、人類による環境破壊や、人口増加にともなう食料問題、民族紛争による国家の分裂等、人類のかかえる問題は山積しています。こうした時代の変容の中で、商業や商業環境は、小さな世界の中に閉じこもり、同じような失敗を繰り返しているような気がしてなりません。

研究開発委員会では、日頃の経済活動やデザイン活動から離れ、商業成立の根元にある街と商業のインタラクティブや、環境問題とデザイン行為のインタラクティブについて、2000年度に引き続き、2001年度も研究を深めていきたいと考えています。研究成果は、微小であるかもしれませんが、社会への提言の始めの一歩になればと考えています。

研究開発委員長 金沢 明彦

JCDは今年創立40周年を迎えます。1961(昭和36)年1月14日誕生以来、関西支部は商都大阪の顔としての店舗づくりのエキスパートとして地域社会に貢献してきました。

21世紀は地球社会の開幕、地域の存在価値がますます重要になってきます。「商」をとりまく環境は、その変容の速度を加速し、明日を創りつつけています。今我々は歴史と現実の狭間に確かなものを見つめ、感じとることがきわめて大切です。

知識の情報化はITの伸展をうながし、知識の空洞化をもたらしてはいないだろうか。情報を知恵に高めるための道具としての「JCD KANSAI」を核とした活動のなかに、「JCDヒストリー」の編集を企てたいと秘かに思っています。

情報委員会 担当理事 郷力 憲治

今年度(2001年)は、白井組織委員会担当理事のもとで委員長として活動を推進してゆく最終年度となりました。

我々JCD会員の職能を取り巻く社会状況は一層厳しさを加え、政治にせよ経済にせよ社会構造の有りようを根底まで見直さざるを得ない位の様相です。そのような状況のなかでも、我々の職能の確立を目指してこの会(JCD)を設立し、維持してこられた諸先輩の方々の努力を大切にしたいと、継続してゆくと努力してゆきたいと思っております。

今年度も組織委員会の年間行事は、新年度早々の支部集会(賛助会員交流会同時開催)を皮切りに賛助会員さんの工場見学会バスツアー(研究会発委員会と共同事業)、ふれあい会(談話室)、クリスマスパーティー、絵馬展参画、また、気候のよい季節には趣味の合う好きなもの同士でのゴルフ、テニス、ボーリングなども企画し会員同士の交流、親睦を深める事業を実行してゆきたいと考えています。

年々世相を反映してか、事業への参加会員が減傾向に有ります。三委員会開催の各種事業に会員各位が参加いただけることが力ともなり活性化にもつながることと思います。

是非時間の調整を行って各委員会及び事業にご参加ください。

組織委員長 亀井 克二

JCD関西支部事務局の移転のお知らせ

(財)大阪デザインセンター事務局移転に伴い、(社)日本商環境設計家協会関西支部事務局を1月29日をもって下記に移転しました。

新住所：〒559-0034
大阪市住之江区南港北2-1-10
ATCビル ITM棟 10階
(財)大阪デザインセンター内

新TEL/FAX：06-6613-5557



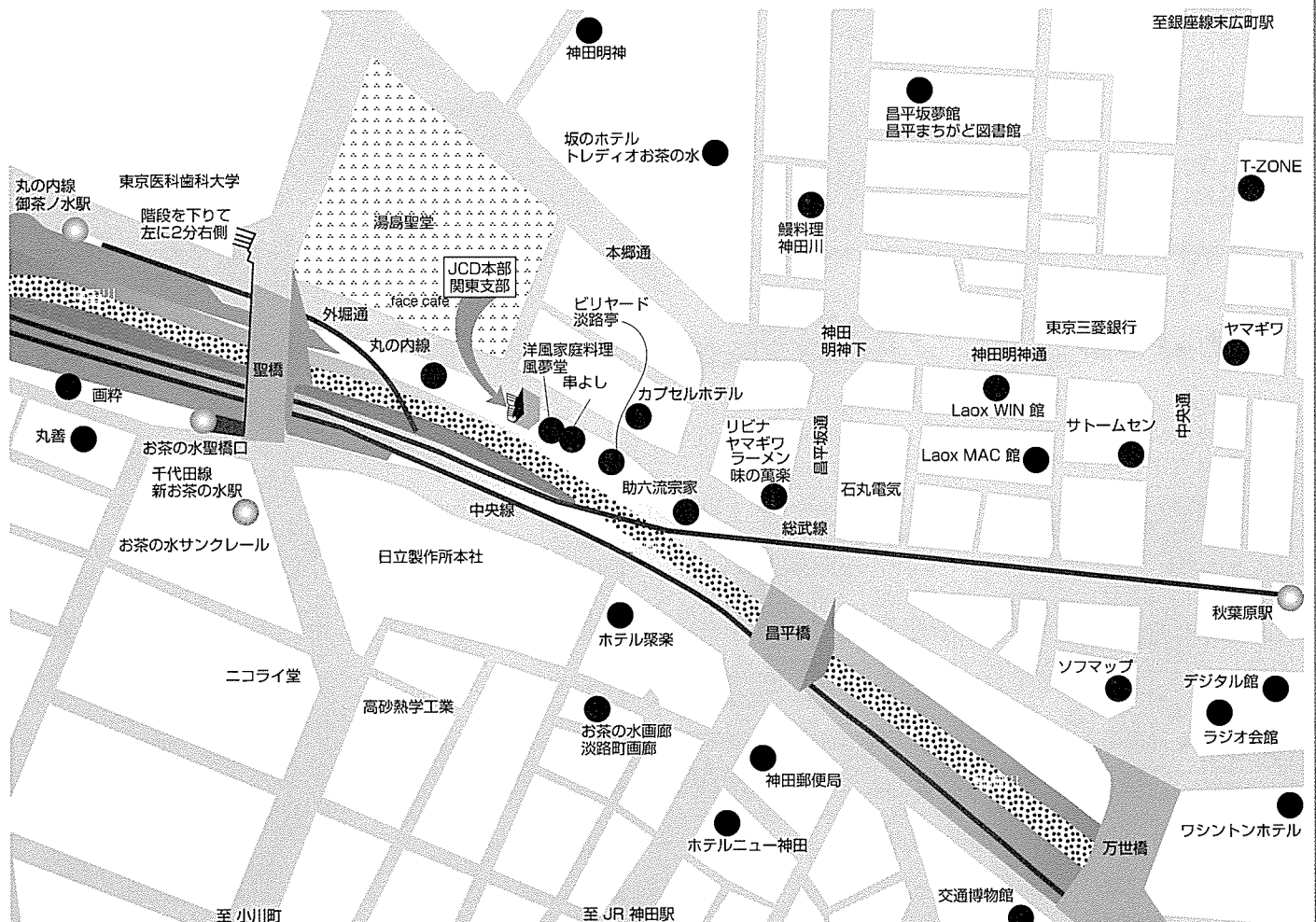
大阪市住之江区南港北2丁目1-10 ATCビル ITM棟10階 A-1
電話06-6615-5571(代表) FAX06-6615-5573 〒559-0034

E-mail odc5661@mbox2.inet-osaka.or.jp
URL <http://home.inet-osaka.or.jp/~odc5661>

JCD本部周辺ガイドマップ

(社)日本商環境設計家協会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-6 外神田会館
TEL 03-5207-6707 FAX 03-5207-6708





播磨路 スケッチの旅

と き 11月3日(金)～
4日(土)
参加者 大菅、岡、金沢、
友田、原田、
前田、山田夫婦
会員外 市村、前川

家内から電話が入った「原田さんからルルブ会のことで連絡があったよ」。

私が名古屋に単身赴任して、早いものでもう10カ月になる、日頃ご無沙汰しているが、ルルブ会に参加のお誘いをいただき、早速原田さんに参加の意志を伝え当日を待った。

当日は朝7時45分大阪駅西側の中央郵便局前に集合である。一人又一人と思いついて立ちでメンバーが集まってくる。山田さんと金沢さんの車に分乗して出発だ。車は阪神高速道路を西へ播磨路へと向かう…

最初の目的地である新宮磨崖仏、ここで記念撮影のうえ、竜野の町に入る。竜野はタイムスリップしたような静かな町で原田さんの思いでの町でもあるらしい。

醤油資料館を見学しスケッチに良い場所を詳しく教えて頂きその場所に向かう。今回最初のスケッチである。ご近所の皆さんから見るとさぞご迷惑なことだろうと思いつつ、夢中になって道一杯に広がりスケッチを描き楽しんでいる。同じような場所からスケッチしていても描いている絵は各人各様でかなり違い随分勉強になる。

描き終わり大菅さんご推薦の土産物店でお土産を買い、次なる目的地日生に向かった。日生は静かな漁村である。ここで二回目のスケッチ。漁船を見ながらボーとしてスケッチしていると、命の洗濯ができていくようである。

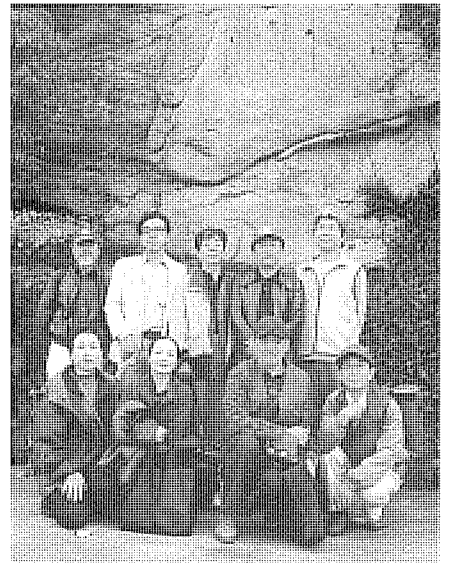
近くで夕食をいただき、今回の宿泊先である、山田さんと金沢さんの別荘に向かう。女性は山田さんの別荘、男性は金沢さんの別荘での宿泊である。

山の中に映画に出てくるような立派な別荘である。ペチカもある。空を見ると今にも星が降ってくるような綺麗な空だ。恋人と二人ならロマンチックなメロドラマである。

しかし誰いうとなく、この場所で殺人があったらと言う話になる。テレビの舞台そのままである。(ルルブ会の皆様ロマンがありませんよ)

翌日は因播街道きっての宿場町平福へと車を走らせる。街道に沿う町並みは、昔ながらの姿で、特に佐田川の石垣に並ぶ白壁の川屋敷、土蔵群はこの町ならではの景観である。ここでこの旅三回目のスケッチに入った。昨晚の冷え込みと打って変わったように暖かいスケッチ日和である。佐田川の対岸から土蔵群を描きながら、周りをみまわすと、絵を描いている人が結構いる。わたしも今回は此处でのスケッチに一番力がいったようである。今回も楽しい二日間は、あっという間に終わりました。皆様お疲れさま、又山田さん、金沢さん、別荘に泊めていただき本当に有り難うございました。特に金沢さんには、絨毯まで焦がさせてしまい、本当に申し訳なくこの紙面をかりてお詫び申し上げます。

(前田 泰弘 記)



新宮磨崖仏前にて

① JCDゴルフ同好会

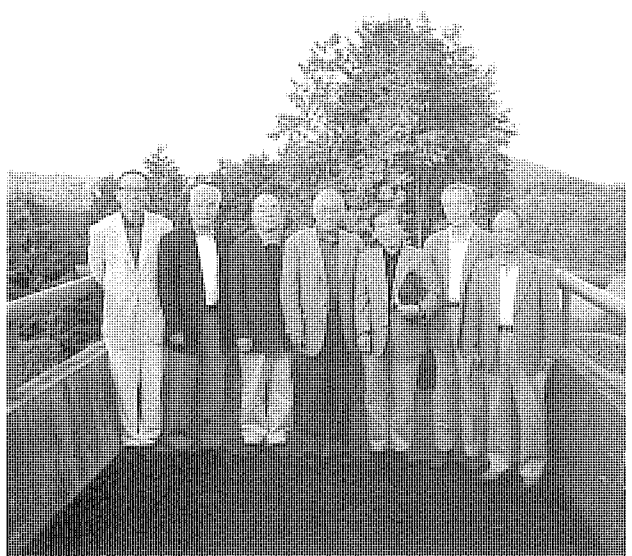
ゴルフ同好会の例会を10月30日(月)
八重桜カントリークラブで実施致しました。
当日のスコアは次の通りです。

氏名	勤務先	アウト	イン	total
片岡正範	大光電機	43	48	91
菅野哲爾	T.Sプランニング	56	51	107
市川邦治	松下電工	53	53	106
野田秀雄	ノダフィルズ	48	53	101
別役禎彦	アート建築デザイン	52	46	98
大森貴夫	近鉄百貨店	56	56	112
斉藤芳一	タジマ	48	50	98

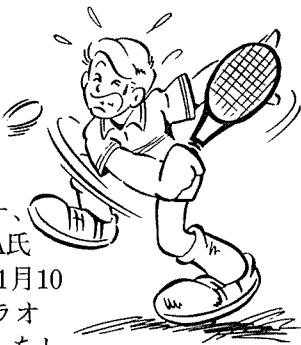
J.C.Dゴルフ同好会は、ゴルフを楽しむ会です。賞品もありません。

一日和気あいあいと楽しくゴルフする会です。

皆さん一度参加してみませんか！ (斉藤 芳一 記)



テニス同好会



『長いことテニスをしてへんなー、企画してよ!』と、わがままなKA氏(匿名希望)からの要望で2000年11月10日から1泊で、宴会2時間、カラオケ3時間、テニス4時間の合宿?をした。場所は滋賀県彦根市最南端の通称「新海浜」、若者のウインドサーフィンではちょっと名の知れた所にあるM社の保養所で、参加者は8名、走ることでは誰にも負けないがテニスラケットは初めて握るSI氏、自転車なら琵琶湖1周もするがラケットは数回目のKU

氏、木製のラケットをもって参加のSU氏、そこそこできると思っているO氏、KA氏と若手2名に筆者。
 現地18:30集合【宴会】は和室で近江牛のしゃぶしゃぶ、ビール、酒、焼酎と宴は盛り上がり、肉を追加する食いっぷりと飲みっぷりは50代を感じさせない。
 【カラオケ】金曜日だったのでカラオケルームは貸し切り、遠慮なく大声を張り上げ、歌えや踊れでクタクタ。部屋に戻ってまだ飲む。テニスに来たのか騒ぎに来たのかそのパワーに若者2名は唖然!
 【テニス】夜が明けて琵琶湖には爽やかな虹が、でも身体はいつもの二日酔い、肝臓の処理能力の衰えた50代のみ。朝食をとりコートでちょっと身体を動かせば体調万全? マラソン、自転車、木製ラケットの3氏を試合が出来る腕に特訓、成果も上がりいざ試合。空振りあり、ナイスボレーありワイワイがやがや声は弾むがボールは



来ない。気がつけば12:30。昼食後またやろう!と元氣よく解散。おじさん達は彦根の町を見学するといって消えていった。どこでまた騒いでいるのやら...

今年もわがままなKA氏の指示でまた企画します。ぜひ参加ください。
 (市川邦治 記)

ランナース集合!!

〈ゆっくり楽しく走ろう会〉



自然とのつながり・人とのつながりを求めて一日中走り続けるウルトラマラソンは途中ボランティアのスタッフが手渡ししてくれる水のありがたさや、水本来の甘さを教えてくれ、自然のきびしさや美しさ、やさしさは自分の体が疲れきったときにこそ初めて感じられるものである事も教えてくれる。そして地球のいろんなところを自由気ままに走ってみたいと思うようになるのです。さあ!! みんなで楽しく走りましょう!!



同好会〈ゆっくり楽しく走ろう会〉がこれまで参加したレースを紹介しします。

第1回フル・リレーマラソン
 1999年全国市民駅伝サーキット。

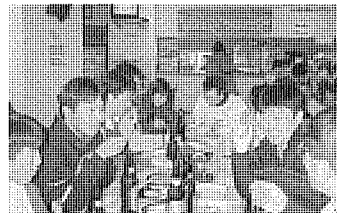
第2回フル・リレーマラソン
 2000年全国市民駅伝サーキット。

参加したJCD会員メンバーは

亀井克二。久保茂。久保田博文。白井進。杉山榮一。寺井義和。前田泰弘。山田悦史。
 賛助会員 大光電機(株)のメンバー多数。

次は7月12日大阪城公園周回道路で行われる七夕駅伝(3km×4区間=12km、4区間の内1人は女性ランナー)に出場し、5時スタートなので走り終わってからビールを飲んだり花火をしたりでゆっくり[七夕の夜]を楽しみたいと思います。

ランナースあつまれ!!
 (組織委員会 白井進記)

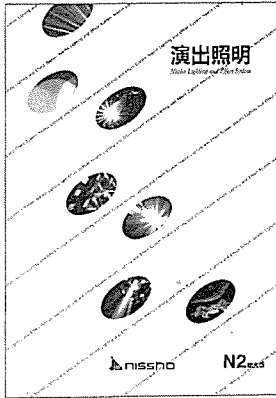


〈ゆっくり楽しく走ろう会〉 お問い合わせ先: 06-6641-7068 現代店舗/白井まで

編集後記

21世紀最初発行予定の「49号」が2冊目に…。会員の皆様ご不満申すなかれ。久しぶりに全ページ編集に携わった者の裏側からの声を一言。「大変なんです!!」。いつも定期的にならぬ届けられる情報誌なんです…。皆様、発行日が遅れようが、少々の変字、脱字があろうが、汗と涙と笑い?の結晶誌、私達の「JCDkansai」を今世紀も大きな愛と寛容でお読み下さい。(記:友田)
 【編集委員】大宮・太田(眞)・郷力・神戸・久保・小宮・友田・岩下・大和・笹木・辻村・野井・原田・平井・藤谷・間宮・[オブザーバー] 白井/[サポート] 山田支部長・里吉副支部長/[印刷] あいであプリンティング(株)

Needs & News



小さなスペースでもパワーを発揮する、コンパクト設計の本格派。
 組み合わせは自由自在。ご予算レイアウトに合わせてシステムアップも思いのまま。
 操作はやさしく、施工も簡単。プロ並の照明が手軽に実現できます。

株式会社 日照

〒566-0035 大阪府摂津市鶴野3-8-7
 TEL.0726-34-1231 FAX.0726-34-1239



デジタル技術を通じて
 視覚伝達をサポートします。

- ・大型グラフィック制作
- ・プロモーション映像制作
- ・ホームページ制作
- ・CGアニメーション制作
- ・グラフィックデザイン

「私達がお伺いします。」



株式会社 ニップコーポレーション
 コンバート事業部

東京 TEL 03(3407)6861 FAX 03(3407)6862
 大阪 TEL 06(6533)6673 FAX 06(6541)1619



MAXPANEL マックスパネル



ペーパーポスターが使用可能
 これまでの常識を変えた画期的なライトパネル
 B0サイズも加わりスケールアップして新登場！

- 明るい** 明るさ感が大幅アップ、ペーパーポスターが使用可能。
- 薄い** 本体の厚みが45mm、空間へもスッキリと収まる薄型設計。
- 鮮やか** 三波長域発光形蛍光灯の採用で、ポスターが鮮やかに発色。
- 簡単** メンテナンス（ランプ交換、ポスター交換）も簡単。
- ローコスト** 従来の当社同等品と比較して、約60%の大幅なローコスト化。ペーパーポスターが使用可能で、従来のフィルムポスターに比べてランニングコストも大幅に低減。

●サイズは、B0、B1、B2タイプの3種類、カラーは、ホワイト、クローム、ゴールドの3色(B0タイプはホワイトのみ)をご用意しています。

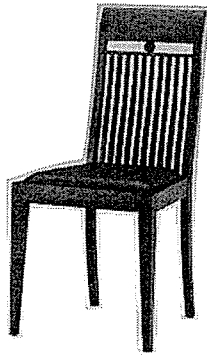
●ホームページ <http://www.maxray.co.jp/>

最新の施工実績を紹介するコーナーを中心に、新製品情報などをリアルタイムに発信しています。また、CADデータがダウンロードでき、商品検索や商品データもご覧いただけます。ユーザー登録も受付けておりますので、どうぞご利用ください。

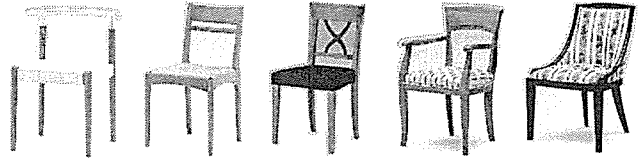
マックスレイ株式会社

〒536-0014 大阪市城東区鶴野西2-18-6 TEL.06-6967-0140
 TOKYO OSAKA NAGOYA FUKUOKA

Needs & News



aboz



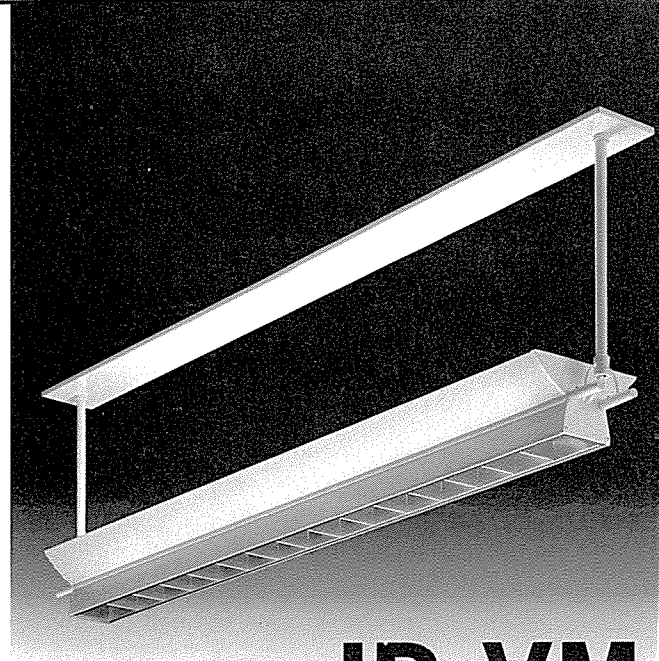
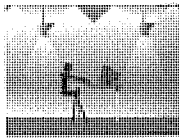
株式会社キノシタ KINOSHITA

本店ショールーム 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4丁目9-22 ☎06-6644-5541(代)
 東京支店 〒114-0014 東京都北区田端1丁目11-1 勘五郎ビル1階 ☎03-5685-6401(代)
 名古屋営業所 〒458-0035 名古屋市緑区曾根2丁目264 ☎052-624-6660(代)
 出雲工場 〒693-0043 島根県出雲市長浜町516-45 ☎0853-28-0311(代)

NEW WAVE. A SENSE OF LIFE
KOIZUMI

オフィスの一歩進んだ 光環境。

ID-VMは直接光と間接光を
 バランス良く組み合わせ、
 オフィス全体をフラットな光で包み込みます。
 グレアやOA機器への映り込みをなくし、
 人にやさしく、しかも高効率なライティングを実現します。



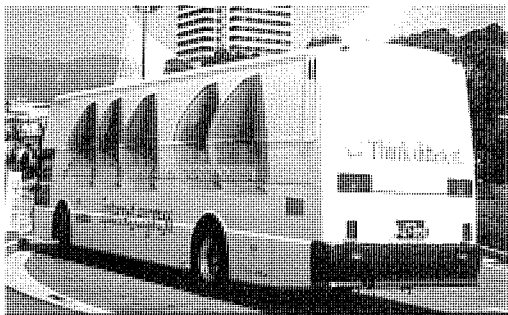
ID-VM
 オフィス空間照明

小泉産業株式会社

照明事業本部 / 〒579-8025 大阪府東大阪市宝町12-3 TEL:0729-86-5061
 大阪施設照明営業所 / 〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3-7 TEL:06-6266-4823

大型グラフィックで空間を演出する

OCCS
 Original
 Creative
 Communication
 System



アーキテクトとグラフィックの融合。
 それが私たちのビジネスです。

例えば、たくさんの人を引きつける集客力。
 あるいは心地よさや楽しさを感じさせる演出力。
 建物にあるテーマが与えられた時、
 グラフィックは効果的な力を発揮します。
 アーキテクトの持つ美しさや機能性と、
 グラフィックが持つ強いメッセージ。
 私たちは、その2つの融合によって新しい世界を創造します。

株式会社オックスプランニング 大阪営業所
 〒541-0058 大阪府大阪市中央区南久宝寺町4-4-12 1・Bセンタービル2F
 TEL:06-6245-2262 FAX:06-6253-7410 /担当:日野

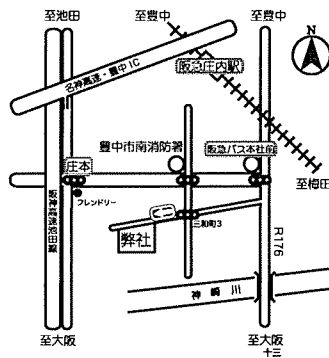
Needs & News

事務所移転のお知らせ

拝啓 時下ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。さて、この度、下記場所に事務所・工場を集約し移転致しました。これを機に、社員一同、日頃のご愛顧に報いる様増々努力して行く所存ですので、何卒、一層のご支援ご指導をいただきますようお願い申し上げます。 敬具

スカイアートプロジェクト

〒561-0827 大阪府豊中市大黒町2丁目2-1
☎ 06(6335)3515 FAX 06(6335)3516
ホームページ <http://www.02.so-net.ne.jp/~skyard>



A L M A



AIDEC

大阪市西区新町1-10-2 大阪産業ビル
TEL.06-6534-0258

適材適床

建物は用途や使う人々によって様々な種類があります。病院・医療施設、福祉施設、学校・文教施設、幼児施設、商業施設、オフィスビルなど夫々に特長や性能を求められています。床も建物によって求められる特長や性能が異なります。建物には様々な部屋や場所があります。やはり夫々に求められている環境や特性が異なります。タジマは、適材適床を考えています。建物別、部位別、機能別に商品開発、床づくり提案をいたします。

株式会社 **タジマ** 大阪営業所
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5
TEL.06(6441)5951(代表)
FAX.06(6444)2596

2000年10月
東りのホームページ
が変わります!

CLICK! TOLI

<http://www.toli.co.jp>

東り製品を簡単にネットで検索、シームレス加工した画像データのダウンロードや、建物別の適材適の選択など、便利な機能も充実。立ち上げは2000年10月の予定です。タイムリーな情報をご希望の方は、今からホームページで TOLI onlineに会員登録を。お待ちしております。

快適空間創造企業



東り株式会社
西日本商業施設部

540-0008 ☎06-6943-1647
大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル7階

WE-EF社はドイツを本拠地とするアウトライトの専門メーカー。優れた技術力と機能的なデザインで、現代建築に調和する照明器具づくりには定評があります。日本ではDAIKOが10年以上に及ぶ協力関係にあり、万全の体制でキメ細かなサポートをしています。



外観が映える。景観に映える。

WE-EF LEUCHTEN

Towards the middle of the twentieth century, mass production and technological advancements dominated the landscape. This age of dramatic change spawned industrial design and a conscious search for a modern identity. Inspired in part by aerodynamic experiments, a design style known as streamlining gradually emerged as the dominant aesthetic influence of the era. Emblematic of speed and efficiency, streamlining merged forms together with transitional curves and eliminated extraneous details. Visually defined by contoured edges, smooth surfaces and low horizontal profiles, the efficient sleek outline of the streamlined form came to symbolize progress and the promise of a better future. Decades later, the timeless attributes of streamlining have inspired the design of WE-EF's new family of luminaires, the Modern Classic series. Both the Xeda and Tharos product groups embrace the heritage of streamlining for a new generation of architectural lighting solutions. WE-EF designs, develops and produces high performance luminaires for projects worldwide. The new Modern Classic series continues in the WE-EF tradition of product development that is renowned for innovation and functional applications. Easy to install, maintain and able to withstand demanding environments, the entire product range reflects WE-EF's commitment to excellence in design and engineering.



WE-EF社製アウトライトの詳細は「D&P」カタログをご覧ください。



TEL.(06) 6972-6280 FAX.(06) 6972-6281
<http://www.lighting-daiko.co.jp>
info@lighting-daiko.co.jp

Needs & News



●いいインテリアのある場所には、いい生活がある。

壁紙・カーテン・床材・イス生地・・・
サンゲツなら、たくさんの商品の中からお気に入りのインテリアがトータルに揃います。
さあ、あなたも素敵なお部屋づくりはじめてみませんか。

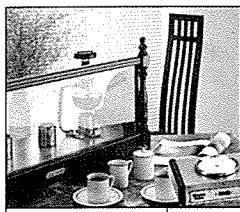
株式会社サンゲツ ホームページ <http://www.sangetsu.co.jp>

●本社/名古屋店 TEL.052-564-3111 ●東京ショールーム TEL.03-3505-3300
●名古屋ショールーム TEL.052-564-3225 ●大阪ショールーム TEL.06-6440-5011

SILK ROOM ヤマキン BLUEMAC

多彩なバリエーションと確かな品質。

山岡金属工業株式会社では、無煙ロースターやガステーブル、小型厨房機器、喫茶機器、喫煙テーブルなど業務用から家庭用まで豊富な商品バリエーションを取り揃え、お客様のニーズにお応えしております。またISO9001認証取得をはじめ、国内外からも日本工業規格表示許可やアメリカ・ガス協会合格認定など多くの技術・品質等に対する証を頂いております。これからも私共は、さらなる品質の向上と製品管理に厳しい目を光らせ、ものづくりへのこだわりを大切に、21世紀に向け、さらに躍進を続けます。



サイフォンガステーブル



遊楽電気テーブル



喫茶用小型ガステーブル



喫茶用ガステーブル



業務用ガステーブルコンロ



家庭用高級焼肉器



パワーグリドル



電磁テーブルユニット



鍋物テーブルユニット



家庭用丸型コンロ



鉄板焼ユニット



焼肉テーブルユニット



業務用攪拌器



家庭用高級たこ焼器



業務用丸型コンロ



鉄板焼ユニット



焼肉テーブルユニット



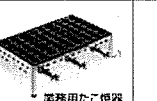
業務用攪拌器



家庭用高級たこ焼器



業務用たこ焼器



時代かがり火



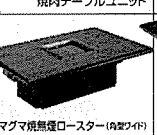
コーヒーマシーン



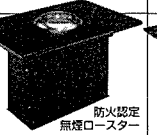
アウトドアテーブルユニット



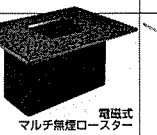
炭焼無煙ロースター(丸型ワイヤ)



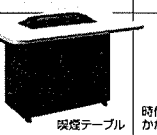
マグマ焼無煙ロースター(丸型ワイヤ)



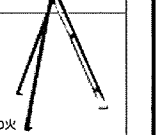
防火認定無煙ロースター



マルチ無煙ロースター



電磁式



電磁テーブルユニット

ISO9001 認証取得工場・日本工業規格表示許可工場
山岡金属工業株式会社

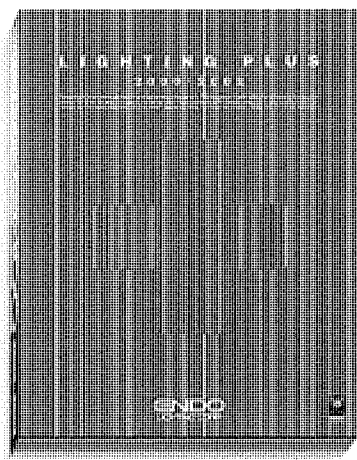
●大阪/〒570-8585 大阪府守口市東郷通2-7-30 TEL.06-6996-2351 FAX.06-6997-3045
●東京/〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-6-4 新福神ビル9F TEL.03-3255-6755 FAX.03-3255-6722

商品に関するお問い合わせは **0120-47-2351**

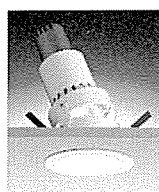
●商品に関する詳しい内容は、ホームページや電子メールでもご覧いただけます。
〈ホームページ・アドレス〉<http://www.silkroom.co.jp/>
〈電子メール・アドレス〉silkroom@po.infosphere.or.jp

●ATCショールーム開設 ●〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟「商い繁盛館」内

LIGHTING PLUS ^{new} 2000-2002



新・総合カタログ
「ライティングプラス 2000-2002」発刊



100φ High-Power Down Light Series

φ100ハイパワーダウンライトシリーズ
業界最小を誇るφ100ハイパワーダウンライトシリーズ。
セラミック発光管コンパクトメタルハライドランプとの
組合わせでシャープな光を実現します。

パナビーム70W

φ100 HIGH-POWER UNIVERSAL DOWN



新・CD-ROMカタログ
「ライティングプラス 2000-2002」9月発行

収録内容 ●製品データ検索/HTML(JPEG) ●LIGHTING PLUS 2000-2002/PDFファイル
●ABITA EXCEL vol.9/PDFファイル ●OUTDOOR/パンフレット/PDFファイル
●配光データビューアー&簡易照度計算アプリケーション/ライティング Ver. 2.0
●照度分布図作成アプリケーション/プランナー Ver. 1.0 ●会社案内/PDFファイル

ENDO LIGHTING CORP. 株式会社 遠藤照明

お問い合せ先
東京 TEL: (03) 3845-1120 FAX: (03) 3845-1144

名古屋 TEL: (052) 937-3288 FAX: (052) 937-3293
大阪 TEL: (06) 6533-9180 FAX: (06) 6533-9197

福岡 TEL: (092) 551-1777 FAX: (092) 552-5189
札幌 TEL: (011) 242-5301 FAX: (011) 242-5302

ENDOホームページ
<http://www.endo-lighting.co.jp/>

SAVING

業界初!セバレットタイプだからできた
30%コスト削減。

ミラーランプ本体が分離型なので、球切れ交換はランプ部分のみ。メンテナンス費用の大幅コストダウンが実現しました。さらに、省エネ光源の採用により消費電力も抑えられ、1年間の経費を約30%削減。ランニングコストダウンを追求した、ハロゲンスポットの新基準です。

SAFETY

セーフティ設計

- ファン破損に備え、ミラー前面をプロテクターで保護しました。
- 光学ミラーとランプとの組み合わせで、熱線を90%カットしました。

SIMPLE

シングル&コンパクト



レクリアタイプ
NL02631WK
標準価格40,500円

表面取付タイプ
NL02633WK
標準価格10,500円



スポットタイプ
NL02621W
標準価格10,700円

手直しタイプ
NL72042WK
標準価格14,400円



リモコンタイプ
NL02641WK
標準価格40,500円

エネルギーリ
タランタイプも
ご用意
しています。

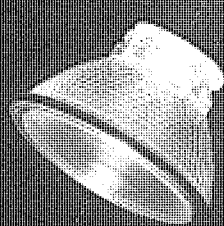
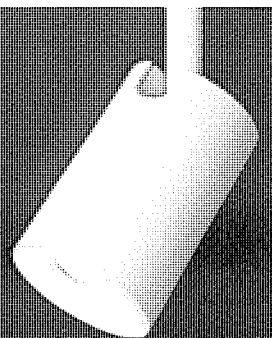
※全て標準
価格・標準仕様。

●選べる色温度&配光

セバレットタイプなので、色温度・配光など用途に合わせてミラーの変更が可能。配光角は10°, 20°, 40°の3種類で展開しています。*ミラーは別売です。

配光角	10°	20°	40°
ノーマル 3500K	●	●	●
ナチュラルクワイ 3500K	●	●	
クールホワイト 4000K	●	●	
調光用		●	
暗黒用			●

セバレットで注目ポイント。



ミラーランプ・本体分離型ハロゲンスポットライト

S-SPOT

〒1-1 東京都千代田区有明1-1-1 有明コロシアムビル10F 松下電工株式会社
 〇最新のご情報は、P.37-38を参照してください。松下電工、電材分社 環境事業本部マーケティング部 TEL:06-6208-1131<大得意>まで
 〇松下電工ホームページ「A&I 新情報」http://www.nsc.jp/

